

(別添1)

【大阪狭山市】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	4,770	4,701	4,830	4,802	4,778
② 予備機を含む 整備上限台数	5,485	5,406	535	374	346
③ 整備台数 (予備機除く)	0	4,701	129	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	4,701	129	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	318	0		
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	318	0		
⑧ 予備機整備率	0%	6.76%	0%	0%	0%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

- ・令和2年度 4,801台
- ・令和3～令和6年度 追加購入端末 152台
- ・令和7年度 4,701台更新 予備端末 318台整備
- ・令和8年度 再利用する端末を除いた第1期端末を処分
(端末を追加で購入している関係から、年度計画で処分していく可能性あり。)

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：4,953台

○処分方法

- ・小型家電リサイクル法の認定事業者により再使用・再資源化を委託 : 4,553台
- ・端末の初期化を行い、学校図書館や授業中での活用台数 : 400台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

令和7年12月頃 更新端末納品
令和8年2月 更新端末使用開始(予定)
令和8年4月 処分事業者選定
令和8年7月～8月 使用済端末の事業者への引き渡し

(別添2)

【大阪狭山市】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

確保できている学校：10校 総学校数に占める割合：100%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和6年の夏季休業期間中にネットワークの更新を行った。令和6年9月より更新後のネットワークの通信テストを行い、ネットワーク速度の確保の実態を把握する。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和6年9月からのネットワーク速度のアセスメントを行い、令和6年10月より順次改善策の検討を開始し、ネットワーク構築業者と協力して速やかに改善を図る。

(別添 3)

【大阪狭山市】

校務DX計画

1. ICT機器を活用したオンライン研修の実施と紙媒体のアンケートの脱却

令和2年度に導入した1人1台端末による環境整備において、Googleアカウントが教職員にも整備された。Google Workspaceの活用が進み、オンライン研修の実施が拡大しており、対面型の研修とハイブリッドで実施している。

夏季休業期間中で集合型の研修であっても、対象者を制限することなく研修の実施が可能であり、また場所を選ばずに研修に参加することができることから、教職員の働き方改革に寄与していると考ええる。また、以前まで紙媒体に手書きであったアンケートについても、フォーム機能を活用し、データ入力とすることで負担軽減につながっている。

2. FAX・押印等の精度の慣行の見直し

現在も訃報連絡や不審者情報、会計年度任用職員の出勤簿などFAXを使用する必要性が高い場合や緊急な情報提供などについては、FAXを使用する場合がある。デジタル化を推進していく必要があるが、情報の性質上適切な取扱いが必要な文書については、引き続き検討を行い、必要に応じて見直しを行っていく。

また、学校からの押印等については、教職員の人事に関わる書類で押印が必要なものの以外は全て押印を廃止し、働き方改革の推進を実施しているところである。

3. 学校と教育委員会が情報共有や各種調査に伴うクラウドサービスの利用

学校への情報提供や通知文書の送付、各種調査依頼については、教育委員会から学校に向けてメール発信を行っている。クラウドサービスを利用することで、学校に出勤していなくても情報共有することができ、ロケーションフリーによる業務改善の推進にも寄与すると考えている。しかし、情報共有の内容や調査の性質上、個人が特定できるような内容が含まれているようなものについては、慎重に取り扱う必要があるため、引き続きクラウドサービスの利用について検討する必要がある。

(別添4)

【大阪狭山市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

小学校1年 端末の扱い方を学ぶ。

小学校2～3年 個別最適化ツールを使用して学習する。

小学校4年～中学校3年 AIドリルや調べ学習、協働学習ツールを使用して日常的に端末を活用する。

学年段階に応じて、端末の使用難易度をあげていき、学校や家庭だけでなく社会に出てからも臆することなく、ICT機器を活用することができる力を身につける。

2. GIGA第1期の総括

- ・令和2年度に市内児童生徒全員分の端末の整備を行った。また、Googleのアカウントやタブレットドリルをあわせて、整備することで家庭での学習環境の整備を行った。

【成果】

- ・学校内のネットワークが一斉通信に耐えられないことから、一時期活用が停止する時期もあったが、令和6年度にネットワーク環境の更新を行い、一斉通信にも耐えられるネットワーク環境が整備することができた。

【課題】

- ・令和7年度に更新予定のOSは既存の端末OSからの切り替えとなるため、操作感や活用方法を習得する上で、児童生徒や保護者、教職員の負担が予想される。基本的な操作から調査、研究していく必要があるため、重点的な支援策を講じていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

- ・ハード故障となっている端末を使って、リサイクルやリユースなどの環境教育に取り組む。

- ・協働学習ツールの活用方法について、他市町村や他府県、メーカーによる先進的な事例を共有する。

- ・Googleの関連会社によるGoogleアプリの活用方法やダッシュボード機能の構築による個別最適化、AIスクリーニングシステムとの連動をすすめる。

- ・ICT教育がテーマになっている小規模特認校制度のICT環境を充実させるとともに、活用事例などを研究部会などで共有することで、市内の情報活用能力の育成を図る。

教育DXに係る当面のKPIについて			
項目	KPI	取組内容	目標値
1人1台端末の積極的活用について	校内でICT研修を実施している学校の割合	・研究部会やICT支援員と協力して、校内ICT研修会を実施する。	100%
	教職員が授業で端末を週3回以上活用する学校の割合	・校長会、教頭会、首席連絡会や研究部会で意見集約を行い、校務用端末の機能改善を行う。	100%
	全国学力学習状況調査における「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」の質問に対して肯定的回答が全国平均を上回った学校の割合	・AIドリルを活用して学習することの面白さを実感する。 ・デジタル教科書の活用による授業の面白さを実感する。	100%
個別最適・協働的な学びの充実について	ダッシュボード機能を構築することで、個別最適な学びを実現し、ダッシュボードを構築した児童生徒の割合	・クラウドサービスによる学習状況のデータの利活用によるダッシュボード機能の構築による学習状況の見える化を実施する。	50% (R7) 100% (R8)
	協働学習ツールを活用する授業を週3回以上実施する学校の割合	・協働学習ツールを活用することで、自分の意見や考えを学級や学年間で共有する。	100%
学びの保障	不登校児童生徒へ授業配信を実施している学校の割合	・オンライン授業の配信ができる環境を整える。	100%
	端末を活用した教育相談を実施している学校の割合	・フォーム機能による教育相談の窓口を設置する。 ・相談があった場合は、学校・SC・SSWなどによる教育相談を行う。	100%
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援にICT端末を活用している学校の割合	・予備端末や第1期端末の再利用において、翻訳機能を使用することで、コミュニケーションが取りづらい児童生徒の支援を行う。	100%